

令和4年度学校自主研修事業（特色ある学校づくり）による学校視察報告

今年度は県教育委員会の事業を活用し、県外2校の学校を視察しました。この視察を通して研修したことを本校の教育活動のさらなる発展に生かして参ります。

岩手県立宮古高校定時制を訪問

訪問日時 令和4年7月12日（火）

校舎には全日制課程、定時制課程、通信制課程と併設されており、生徒たちの元気のよい挨拶が印象的でした。

- 学校設定科目「生きる力」を活用し地域に目を向けさせ、地域や地元企業との繋がりを作り、郷土愛の醸成を図っている。
- 有志で集まる役付けを行わない生徒会活動を中心とした学校行事の企画・運営を通して、自己有用感や成功体験を得ることが出来る居場所作りを行っている。
- 観点別評価シートを利用しているが、生徒の実態や学習状況を観察し、生徒の成果を十分に評価できるよう調整・工夫を行っている。
- 学校に足が向かない不登校傾向の生徒に対し、積極的にICT機器を活用したりリモートでの学びの保証を学校として認めている。
- 中学校で未経験の行事が多い生徒の実態を踏まえ、勇気を持った取組が成功体験となるよう準備から実行まで生徒と目線を合わせて支援を行っている。
- 生徒たち自身の好奇心や関心を各教科の授業内容として取り上げ、効果的なICT利用により、成果物として生徒の学びを可視化している。
- 教務部の負担を減らすため、県として教員が使用しやすい校務支援システムを取り入れている。
- 生徒一人ひとりにマイクロソフトとオフィス 365 のアカウントを付与し、クラウドやチームスの利用により、学習の幅を広げた授業実践を行っている。



本校の学校づくりに向けた今後の具体的な取組として以下のことを検討しています

- 総合的な探究の時間を通して、ETAに協力をいただき地域や地域企業との関わりを作ることで郷土愛を醸成する。
- 生徒主体となって行事や学校生活に取り組めるよう、生徒会活動の充実をはかる。
- 不登校傾向の生徒に対するリモート授業等の学びの保証方法を検討する。
- 生徒の取組や成果を適切に見とれるような評価を検討する。

岩手県立杜陵高等学校奥州校を訪問

訪問日時 令和4年7月14日（木）

落ち着いた町並みに囲まれた校舎では、生徒たちが自主性を持って学ぶ姿を拝見することができました。

- 1年次は必修科目のみの時間割となっており、それを履修すれば2年次からは自身で授業を選択して履修することができる。
- 単位制を取り入れているため4年次までは原級留置という制度がなく、未履修になってしまった教科も次の年に受け直すことができる。また、登校日数が満たなかった際も、前期後期どちらかで登校日数を満たしていれば一部の単位を認めている。
- 昼間部、夜間部があることをメリットとし、互いの授業も履修可能となっている。また、夜間部の1年次から昼間部の時間を使用した登校等が行われており、三修制が身近となっている。
- 中学校まで不登校傾向の多かった生徒の実情を鑑み、総合的な探究の時間では地域に出て、実生活に根ざした体験を多く持たせることを目標としている。
- 現代の国語、言語文化、数学Ⅰ、英語コミュニケーションⅠの授業では、生徒の理解度の担保を行うためTTを取り入れている。
- 資格取得や高認合格科目等の授業外の資格についても積極的に卒業単位としてカウントできる制度を取り入れている。



本校の学校づくりに向けた今後の具体的な取組として以下のことを検討しています

- 出席した生徒を適切に評価できるような観点別評価規準の検討。
- 実社会に根ざした経験を積むことが出来る時間を総合的な探究の時間を使用して計画する。
- 生徒の理解度を鑑みて本校でもALT等のTT制度のさらなる充実を図る。
- 始業前の時間等を生徒の活動に充てることのできるよう、年度始めの段階で始業前登校日を設定する計画を行う。